

## 平成 29 年度の運営総括及び来期の課題

「白根南児童館」は今年度で開館 3 年目を迎えることができた。来館者数は昨年と比較すると年間 557 名の増加、一日平均 1.6 名の増加があった。小学生、中学生、高校生で来館者数の増加がみられた。また、地域の方々、保護者の方々、意欲的な小学生ボランティアの協力が得られ、児童館が地域に定着してきた。

### 1. 乳幼児事業

#### (1) 総括

毎月、定例行事である『すくすくひろば』、『絵本タイム』、『作って遊ぼう』を企画・運営している。親子のふれあい遊びや身体を動かすこと、絵本読み聞かせ、制作活動などで、子どもの成長を確認できる場となっている。

保育園帰りの幼児の来館や、支援センターでの保護者同士の情報交換による来館、他所で行われた『BP 講座』、『NP 講座』に参加した母親の来館などがあった。南区だけでなく、広い地域からの来館がみられる。土曜日・日曜日・祝日も開館しているため、日頃支援センターに通う近隣の加茂市、三条市、田上町の方々や、父親や祖父母の来館がある。また、職員による育児相談や母親同士の交流を求めている保護者がいる。職員は子どもを遊ばせながら保護者と会話をし、日頃の育児の悩みなどの傾聴に努めている。また、友達を求める母親への仲立ち役としての役割を果たしている。

保護者向けの行事として、『子育てオーエンジャー☆みなみ』との連携による『わくわくひろば』や『ママタイム』を開催した。今年度は新しい試みとして、来館する幼児や小学生の母親が得意な内容を実施し、講師として招いた。ハンドトリートメントやヘッドリフレに加え、ジェルネイル、ハーバリウム、焼き物アクセサリ、コンサートなど充実する内容となった。特にハーバリウムは人気で、定員を増やして実施した。母親たちがリラックスできる時間を楽しんでもらうことに加え、母親の自己実現の機会にもなり得た。また今年も近隣に住んでいる母親が自家製のハーブティーを持参してくださり、好評であった。今後も母親の活躍の場を作るうえでも継続していきたい。

移動児童館に出向いた地域の保育園からは、バスを利用した保育園児の来館が今年もあり、相互の交流を図ることができている。

#### (2) 課題

今年度は保護者に児童館という場を知ってもらうため、地域の検診に顔を出すことを行い、そのことで来館に繋がった方もいた。今後も、他所に出向き、触れ合いを積極的に行っていきたい。また、地域の母親の特技を活かせる場づくりと地域の方々と連携を図った企画を今後も継続し、居場所となりまた活躍の場となるよう働きかけていきたい。保育園入園や子どもの発達、家庭環境などについての保護者の悩みについて情報収集し、保護者と子どもの拠り所となる児童館を目指したい。

昨年度はBP講座が白根健康福祉センターで行われたが、来年度は児童館で行われるため、認知度を高め、親しみの持てる場となるようにしていく。

## 2. 小学生事業

### (1) 総括

幼児の頃から保護者と来館している子どもが、小学生となり来館していることが増えた。平日の小学生の来館は、定期的に来館してくれる子どもが多い。学校から帰って、児童館に来れば誰かいるという思いがあると考えられる。長期休みでは、放課後児童クラブ『茨っ子クラブ』の小学生が午前午後と来館し、賑やかさを増していた。帰省中の小学生の来館もみられた。

クラブ活動では今年度も『手づくりクラブ』や『音楽クラブ』を活発に行い、小学生の定着した来館に繋がった。『手づくりクラブ』では茨曾根地域生活センターにて手芸、白根健康福祉センターにて調理などを行った。茨曾根小学校だけでなく、庄瀬小学校、新飯田小学校、月潟小学校などの子どもが参加してくれた。『音楽クラブ』では今年も『茨っ子クラブ』や地域の小学生がメンバーとなり、茨曾根の『なつまつり』や『敬老会』に参加し、音楽発表を行った。地域の方々に日頃の練習の成果を披露できた。保護者の協力が有難い。

また、一輪車検定が日々行われ、地域の保護者の特技を活かした卓球クラブ、将棋クラブ、けん玉検定などを定期的に行っている。小学生は大人との関わり教えてもらえる機会、楽しめる時間として参加している。

はるまつりやあきまつりでは、子どもたちが意欲的にボランティアとしての役割を果たした。日頃の子どもの意見、集中でき頑張っているものから、話し合い、協力していた。日頃から一輪車の練習をして上達している小学生が、ボランティアとしてまつりのオープニングにて発表をすることになった。保護者の方は練習に来てくださったり、本番も協力をいただいたりして有難かった。

夏休みには夏休み工作として地域の方を講師として招いた。陶芸の風鈴づくりや、クラフト工作などを行った。白根公民館との連携で、茨曾根小学校文化祭にて作品展示をさせていただいた。子どもは表現する場ができ、また保護者からも関心を持っていただけた。掲示されている記録を見て、来年度是非参加したいという声が多い。

お正月お楽しみ会では初めて落語研究会の方をお呼びし、地域の方や小学生が落語を楽しんだ。また、小学生で初めて実施した豆まきも盛り上がっていた。定番となっている宝探しゲームも楽しんでいた。

避難訓練では来館している子どもがスムーズに動くことができていた。予告なく実施したが、日頃からの訓練で行動できる子ども達が素晴らしかった。様々な訓練を継続して行っていきたい。

## (2) 課題

行事で徐々に小学生ボランティアの意欲的な参加が増えてきた。さらに保護者の方の参加が得られるように、地域の方々との連携を強めていきたい。低学年が平日は多いが、高学年が比較的少ない。身体を動かすことはもちろん、考える内容やゲーム性のある高学年向けの行事の企画や、勉強・宿題をする場の提供など、高学年も継続して楽しめ、居心地のよい居場所にしていく。また、今後も地域の方と連携し、クラブ活動やその他の行事を企画し、一緒に作り上げ、盛り上げていきたい。

## 3. 中高生事業

### (1) 総括

中学生の時から来館していた、高校生となった女子 2 名は、昨年同様に行事の準備を手伝ってくれたり、気楽に職員との会話を楽しんだりしていた。

今年も、小学 6 年生が中学生になる前の春休みに来館し、友人と卓球やミニバドミントンなどで遊ぶ姿がみられた。また、小学生の時から来館した子どもの来館が長期休みの際にあり、集会室にて受験勉強をすることや、遊戯室にて卓球大会の練習などをしてきた。また『放課後等デイサービス ふあぷ』への移動児童館の定着により、中高生の来館が増加した。

### (2) 課題

今後も、白南中学校での移動児童館を継続し、ボランティアの場としても利用してもらうことを継続していく。また、『あきまつり』や『移動児童館』では、白根高校の生徒がボランティアとして参加する機会を来年度も作り、移動児童館をきっかけに、

居場所として活用してほしい。幼児・小学生の頃から来館している子どもが、中高生になってからも来館することに繋がるよう、企画・実施、環境を整備していきたい。卓球大会やボランティア活動の提案をしていく。中高生との繋がりに加えて、大学生との連携も将来的に作っていかせたらと考えている。

#### 4. 移動児童館

##### (1) 総括

白根南児童館の特徴である移動児童館は、年 103 回開催した。白南中学校での昼休みの移動児童館はカプラを中心に年 3 回実施した。『放課後等デイサービス ぷあぷ』と白根第二、月潟、臼井、根岸などの『ひまわりクラブ』での実施があった。また、近隣の茨曾根小学校にて昼休み、庄瀬小学校にてバス待ちの放課後の時間での実施を継続して行った。そよ風保育園、月潟保育園、新飯田保育園での読み聞かせや講師を招いてのクリスマスコンサートやリトミックを行った。子育て支援センターぷあぷでは読み聞かせとギター弾き語り、ハンドマッサージなど、継続した実施などがあった。多い月では11回の開催があり、地域からの要請、ニーズに応じている。保育園の移動児童館で顔見知りになった子どもが来館してくれたり、支援センターで出会う保護者が児童館を利用していたり、交流のきっかけとなっている。移動児童館の定着が児童館の認知、来館に繋がっていることを実感する。小学校の文化祭ではカプラや作品展示などで今年度も参加することができた。また、小学生を中心としたクラブ活動において、夏まつりや敬老会などの行事に参加することで地域との連携が図れている。参加する際に、茨っ子クラブや保護者の方、公民館、コミュニティー協議会、地域の方々の協力があり、有難い。児童館への理解が深まってきている。今後も継続し、子どもが地域で発表したり表現したりする場として活用していただけるようにしたい。

##### (2) 課題

来年度もこれまでの内容を見直し、改善、継続しながら、今後は白南中学校や白根高校とも移動児童館だけでなく、行事やボランティアなどで積極的に連携を取り、中高生向けの内容を充実させていきたい。例えば卓球大会や音楽祭、ボランティア活動、学習などの企画ができればと考えている。ボランティアや講師の方々の協力に加えて、職員の技術向上に努め、体制を作っていく。来年度も、地域に根差した活動とネットワーク作り、職員のより良いチームワーク作りの取り組みをしていきたいと考えている。